

特集

あいあい こころの宅急便

contents

特集

「あいあい」が変わります
山形さくら町病院 横川弘明
医療情勢の変化を見据えながら
上山病院 江口拓也

report

ステップアップ霞城一周年

gallrey 悠ゆうだより

ストレッチとは?

山形さくら町病院 早坂真弓

gallrey からだ

ストレスとの上手なおつきあい④
上山病院 佐藤仁美

topics

さくら町病院から
上山病院から

information

上山病院外来診療案内

2013春号
No.67

「あいあい」が変わります

山形さくら町病院
院長 横川弘明



「あいあい」をご愛読いただき、ありがとうございます。これまで、当院の医療サービスを地域の皆様に知りたいために、情報発信の一手段として、「あいあい」を定期的に発行してきましたが、この度紙面を改め、もっと読みやすいものに変えていきます。

当院は大正年代に、東北地方で2番目の民間精神医院として歩み始めました。創設者二本松錠

医学博士の、心を病んだ人々の苦しみを早く癒し退院させ、家族の負担を軽くすることが、当院の社会的使命であるとの思いは、90年以上経っても引き継がれております。でも、私共は伝統に胡座をかくつもりは毛頭ありません。むしろ、それに更なる磨きをかけ進んでいきたいと考えております。

本年度から運用開始になる山形県第6次地域医療計画に5疾病5事業がうたわれ、精神科医療の重要性が位置づけられるようになりました。これは日本で近年、精神障害で苦しむ人々が増加しているため、国家方針として精神科医療の再編に取り組むことの反映です。

当院は、精神科救急から、慢性期のリハビリテーションまで、児童思春期から老年期の人生の節目に起こる様々な精神障害まで対応が可能なオールラウンドプレイヤーだと自負しております。

ます。兄弟病院の上山病院は勿論、他の医療機関や行政機関、社会資源との連携を密にし、良質な精神科医療を展開し、患者さんに寄り添ってまいりたいと思います。

「あいあい」は、これからも当院の活動内容や精神障害に関する様々な情報を伝えします。当院の多職種にわたるスタッフがそれを担います。お読みになったご感想やご意見を寄せただければ幸いです。

今年もたくさんの新入社員を迎えることができました。新しい力と研修等を通してより質の高くなった職員の力で、もっともっと地域から信頼される病院づくりをしてまいります。

今後ともご指導とご鞭撻の程をよろしくお願ひ致します。



旧 あいあい

医療情勢の変化を見据えながら

上山病院
院長 江口拓也



日本の医療を取り巻く状況は大きく変わろうとしています。国は大きな目標として、入院医療から地域での医療に大きく舵取りをしようとしていることをひしひしと感じるこの頃です。これは精神医療に限った事ではありません。医療機関は機能分化が進むでしょう。その中で上山病院はどう変わっていくべきなのか。上山市にある当院は将来、どう舵取りをするすべきなのか。

報道によると山形県の人口の減少は全国でもトップレベルとのことですし、上山市は県内市のなかで人口、とりわけ若年層の減少がやはりトップレベルにあるようです。この様な現状ではあります、当院は上山市の活性化に寄与したいと考えております。

当院は上山市民の「こころの健康」を第一に考えた質の高い精神医療を提供していく事に迷いはありません。急性期はもちろんですが、上記高齢化、及び精神疾患が慢性的に経過する病気である事を考慮した場合に慢性期医療の質の向上は必須です。

まず、市民に選ばれる病院でありたい。医療の質の向上のみならず、上山市など公的機関との連携を更に強化し、情報を収集していきます。市民の皆様に対し「こころの健康」の情報の提供を積極的に行っていきます。「あいあい」



の充実もその一端ですし、上山市医師会、上山市、社会福祉協議会等との連携で講演会なども今まで以上に行いたい。講師も医師にとどまらず、当院には精神医療等の専門職が控えています。地域に貢献したいメンバーがグループを作っています。声をおかけください。

多くの精神疾患、とりわけ、うつ病（自殺者減少対策としても）、認知症治療（地域で支える為にも）に対するわれわれの役割はまだまだ大きいと思います。医療の質の向上にはハード面の強化が大切です。今後、上記医療や人口動態等の情勢を冷静に分析し、新しい上山病院を作っていくたい。当院の職員は多くが市民であり、市民と共にあります。そして元気に働いております。更に精神医療に対する研鑽に努めます。どうか市民のみなさま、上山病院がより良い病院に育つよう、ご支援の程、宜しくお願ひ申し上げます。

